

960. 再ビ「既約行列系」= 就テ

安 唐 亮 (東京帝大)

私ノ此ノ前ノ談話「行列系ノ既約性ト絶對既約性」(本誌第217号)ノ誤リヲ中山サンガ注意シテ下サイマシタ。
「定理1」ハ全然誤リデス。証明ガ間違ッテ居ルベカリデナク、

定理ノ内容自身が橋リデアアルコトモ中山サンが例ヲ察ケテ教ヘテ下サイマシタ。従ツテ定理1ヲ使ツタ定理5ノ証明モ変ヘナケレバナリマセンガ、此ノ定理ノ方ハ内容ニハ誤リカナク、独立ト証明ガ簡單ニ出来マス。先ヅ其ヲ述ベマス。(§1)

次ニ定理1ハ定理4ノ逆定理、心算ダツタノデスガ、先ヅ定理4及ビソノ逆ヲ必要トシタ問題ヲ述ベテ (§2) (ソレハムシロ前談話ノ前書トスベキモノデシタガ)、ソノ問題ノ解決ニ役立つ様ニ、定理1ニ代ル條件ヲ出シマス。(§3,4,5) 餘リ奇麗ナ形ニナラズ、他ノ定理ノ方法ト首尾一貫シナクナリマスガ、使ハウト思ツテ居タ目的ニハ大体十分トコトガ分リマス。(§6)

色々教ヘテ下サツタ中山サンニ御礼申上げマス。

§1. 先ヅ定理5ノ証明。

K/P が有限次ナルトキ K 上ノ (必ずシモ *associativ* ナリ) *einfache lineare algebra* M/K ハ P 上ノ *algebra* トシテモ *einfach* デアル。但シ $M \neq (0)$ (従ツテ $M \neq 0$) トスル。

証. $m \neq M$, P -Ideal $\neq (0)$ (P -modul + 右側 Ideal) トスル。 $m \cap K = M$, K -Ideal $\neq (0)$
 $\therefore m \cap K = m \quad m \supset M \cap m = M \cap K \cdot m = M \cdot m \cap K$
 $= M \cap M = M \quad \therefore m = M \quad \text{f. e. d.}$

注意 $M \cap M = 0$ ナラ定理ハ成立タナシ。

§2. 次ニ行列系ニ関スル定理4及ビ其逆ヲ必要トシタ問題ニ就テ説明スル。

P / 上、Radikal を持つ Lie 環ノ構造トシテ
 ドンナモ、ガアルカヲ知ルノニ、 P / 上、単純 Lie 環ノ
 P = 於ケル表現ヲ知ルコトガ必要ニナツテクル。(本誌
 214号、可換ノ Radikal を持つ Lie 環 (I) 156頁
 以下参照) シタトモ標数 0ノトキニハソレハ P = 於ケル既約
 表現ノ知識ニ還元サレル。所ガ閉体ニ於ケル既約表現ハ
 Cartan 以来完全ニ知ラレテ居ル。ソノ知識カラ P = 於ケ
 ル既約表現ノ知識ヲシタトモ原則的ニハ導キ出シタイト云
 フノガ吾々ノ問題デアール。

然ルニ定理 4ニヨレバ、 P = 於ケル既約表現 ρ 'ハ、 P
 ノ有限次拡大 K/P = 於ケル絶対既約表現 ρ 'カラ正規表現
 ニヨル置換ヘテ得ラレル。シタガツテ、既ニ知ラレテキル閉
 体ニ於ケル既約表現 ρ^* ヲ transform シテ適當ノ有限
 次 K/P = 於ケル絶対既約表現 ρ 'ヲ得、ソコヲ置換ヲス
 ルコトニ依ツテ、 P = 於ケル既約表現ハ必ず求メラレル筈デ
 アール。

但シ 勝手ノ有限次 K/P = オケル ρ = 直シテモ (勿論
 直セタトシテ)、ソレカラ P = 於ケル既約表現ガ得ラレルカ
 ドウカハ分ラナイ。ソコヲ定理 4ノ逆ニ當ルモノガドウシ
 テモ必要ニナツテ来ル。

例ハ ρ ガ K, P ノ中間体ニ於ケル表現ニモ直セル場合
 ニハ、 K = オケル表現トシテ K/P ノ正規表現ヲ置換ヘタノ
 デハ P = 於ケル既約表現ガ出来ナイコトハ前談話ノ第一節ニ
 述ベタ。即チ K ハソノ意味ノ *minimalität*ヲモタナケ

レバナラナイ。ソレが逆ニ十分知ト主張シタノが前談話ノ定理1デアツタ。

§3. 所ガ實ハソレダケデハ十分デナイコトヲ中山サ
ンガ例ヲ案ガテ注意シテ下サツタ。ソノ一例ヲ次ニ引用サセ
テ載ク。

P ノ上、Indesc j ノ normale Divisionsal-
gebra Ω ヲトリ、ソノ minimal + Zerfällungs-
körper K ガ $n = (K:P) > j + 1$ モノヲトル。 Ω ノ K
ニ於ケル 絶対既約表現ハ K, P ノ 中間体ニオケル 表現ト同値
ニハナラナイ [$\because \exists \mathcal{O} \neq \mathcal{O}_B \supset P$ ナル $\mathcal{O}_B =$ オケル 表現
ト同値ガツタトスレバ、 $\mathcal{O}_B =$ オケル Ω ノ 絶対既約表現ガ
アレコトニナリ、従ツテ \mathcal{O}_B ガ Ω ノ Zerfällungskör-
per トナリ、 K ノ minimal + コトニ反スル] 即チ定
理1ノ 假定ハ満足サレラ居ル。コノ表現ハ j 次ガカラ、
 K/P ノ 正規表現ヲ置換ヘレバ $P =$ オケル n_j 次ノ 表現
ニナル。所ガ Ω ノ $P =$ オケル 既約表現ハ 正規表現デアツテ
 j^2 次デアル。 $n_j > j^2$ ガ カラ始メ、表現ハ既約デアハリ
得ナイ。即チ定理1ノ 終結ハ 成立シナイ。

Ω ノ Indesc $j =$ 等シイ 次数ノ Zerfällungs-
körper K/P ヲトレバ 表現次数ノ 関係式 $n_j = j^2$ ガカ
ラ 既約表現ガ得ラレルコトガナル。而モ此ノ 場合 $n = j$
ナル K ヲドウトツテモ、ソレカラ得ラレル $P =$ 於ケル 既約表
現ハ 皆同値デアル。

§4. 上ノ例カラ直チニ 想像サレルヤウニ、 K ノ 次数ノ

條件が定理4ノ逆トシテ定理1ニ代ルベキモ17與ヘルコトヲ次ニ示サウト思フ。

但シ \mathcal{O} = 當ルモ1ハ associative algebraノ表現以外ノ場合 (associativeノトキハ表現論ハ此如ク考ヘテ居ル問題ニ關スル限リ殆ンド trivial) = ハ、表現ノ matrixノ基礎体ヲ標数トスル enveloping associative algebraカラ作ラレル。或ハ前談話ノ流儀ニ依レバ \mathcal{Y} ノ commutator algebra, 即チ \mathcal{Y} - K -表現加群ノ \mathcal{Y} - P -加群トシテ、自己同型環 Δ ヲ考ヘル所デアルガ、ソレハ \mathcal{Y} - K -加群ガ先ニ與ヘラレタトキニハ考ヘニクイ (第一 Δ ヲ考ヘル位ナラ、ソレガ Schiefkörperカドウカト云フコトダケデ P ニオケル表現ガ既約カドウカト云フコトハ分ツテ了フ) ダカラ、イサコカ方法ガ統一ヲ欠クケレドモ、enveloping algebraヲ考ヘルコトニスル。

§5. \mathcal{Y} ヲ K ニ於ケル絶対既約ノ n 次行列系トシ、 P ヲ K ノ部分体トスル。(次ノ [1], [2] デハ K/P ハ必ズシモ有限次デナクテモヨイ)。 \mathcal{Y} ノ enveloping associative P -algebraヲ \mathcal{O} トスル。即チ $\sum_i P_i S_{i,1} S_{i,2} \dots S_{i,r_i}$ ($P_i \in P, S_{i,j} \in \mathcal{Y}$ ノ行列)ノ全体ヲ \mathcal{O} トスル。 $\mathcal{O}K = K^n$ 猶 \mathcal{Y} ハ P ニ關シ一々独立ノ行列ヲ有限個シカ含マズ、^{*} 従ツテ $(\mathcal{O}:P) = \text{有限トスル}$ 。(勿論 K/P ガ

* \mathcal{Y} ガ零行列シカ含マナイ場合、表現ヲ云ヘバ零表現ノバアヒハ除外スル。

有限次ナラ自然ニサウナル。又 K/P が無限次デモ、例ハバ
 ヲガ $P =$ 於ケル algebra 又ハ Lie algebra 1 表現デ
 アルヌナ場合ニモ勿論、 $P =$ 關シ独立ナ行列ハ有限個シカ
 ナイ)

① \mathfrak{A} ハ einfach ナ P -algebra デアル。

証. \mathfrak{A} 7 \mathfrak{A} 1 両側 Ideal $\neq (0)$ トセバ、 $\mathfrak{A}K$ (\mathfrak{A} 7
 matrix 1 集合トレテ、ソレ $= K$ 1 元ヲカケル) ハ $\mathfrak{A}K = K_n$
 1 Ideal $\therefore \mathfrak{A}K = K_n \therefore \mathfrak{A}$ ハ中環デアリ得ナイ。従
 ヲテ \mathfrak{A} ハ単純純環。次 $= \mathfrak{A} \neq (0)$ $b \neq (0)$ $\mathfrak{A}b = (0)$ ト
 假定スレバ、 $(0) = \mathfrak{A}K \cdot bK = K_n \cdot K_n = K_n$ トナツテ矛盾。
 $\therefore \mathfrak{A}$ ハ單純純環。 q. e. d.

② \mathfrak{A} 1 Zentrum Z トセバ $P \subset Z \subset K$ 、且ツ
 $\mathfrak{A}_{K/Z} \cong K_n \therefore (\mathfrak{A}:Z) = n^2$

証. \mathfrak{A} 1 Zentrum Z 1 matrix ハ $\mathfrak{A}K = K_n$ 1
 スベテ 1 matrix ト可換ガカラ $\mathfrak{X} \in E_n$ ($\mathfrak{X} \in K$) 1 形。
 $\mathfrak{X} \in E_n = \mathfrak{X}$ ト書クコトニスレバ $P \subset Z \subset K$ 。又 $\mathfrak{A}K = K_n$
 ハ $\mathfrak{A}_{K/Z}$ (\mathfrak{A} 7 抽象的 $= Z$) 上 1 algebra ト考ヘテ、標数
 7 $K =$ 拡大シタニモ 1) 1 homomorph + Bild デ、而モ
 $\mathfrak{A}_{K/Z}$ ハ einfach ガカラ $\mathfrak{A}_{K/Z} \cong K_n$ $(\mathfrak{A}:Z) = n^2$
 q. e. d.

$\mathfrak{A} \cong \Delta_m$ Δ : Divisionsalgebra. Δ 1 Index
 7 j トスレバ $n = mj$ 。又 $(Z:P) = s$ トスル。IX 上 1
 記号ヲ使ツテ:

③ K/P ハ有限次トスル。 $K =$ 於ケル絶對既約行列系

γ = 於て K / 元 γ K/P / 正規表現ヲ置換ヘタモノ γ' トスル。 γ' が既約ナル必要十分条件ハ $(K:Z) = j = [\sigma/Z$ / Index] ナルコトデアル。 或ハ K 中 $\sigma \cong \Delta_m + \nu \Delta = \text{maximaler Teilkörper}$ トシテ含マレルト云フチモヨイ。

証。 γ ハ n 次ガカラ、 γ' ハ $n(K:P) = n(K:Z)$ 次デアル。 γ' ハ $\sigma/P = \sigma$ ナル表現 = 拡張ナレル。 夫ガ既約ナ条件ヲ求メレバヨイ。 所ガ $\sigma/P = \sigma$ ナル既約表現ハ、 σ / *minimales Linksideal* L (τ vermitteln ナル、 $(L:P) = (\sigma:P)/m = n_j^2 Z = n_j$) 次ガカラ n_j 次デアル。 $\therefore \gamma'$ が既約ナ条件ハ、之レト次數ガ等シイコト、即チ $n(K:Z) \cong n_j Z$ 、 $(K:Z) = j$ ナルコトデアル。 且ツ [2] = ヨリ K ハ σ/Z / 従ツテ Δ/Z / *Zerfällungskörper* ガカラ、 K ガ Δ / 最大可換部分体トシテ含マレルコトデアルトモ云ヘル。

q. e. d.

§ 6. § 2 / 問題ハ § 5 / 結果ヲ使ツテ原則的ニハ解決スル。

A ヲ P / 上 / 閉体トシテ、 $A =$ 於ケル既約行列系 γ^* が興ヘラレタトスル。 [1], [2] / K ヲ A ト考ヘテ γ^* / *enveloping algebra* σ^* ヲ作レバ、 σ^* ハ單純環デ [2] / 性質ヲモツ。 $\sigma^* \cong \Delta_m^*$ ナル *Divisionsalgebra* Δ^* / 一ツノ最大可換部分体 K ヲトレバ、 σ^* ハ K 中絶対既約ナ表現ヲモツカラ、 γ^* ハ適當 = *transform* シテ K

ニ於ケル (絶対既約+) 行列系 $\gamma = \text{デキル}$ 。 γ の enveloping P -algebra \mathcal{O} の勿論 \mathcal{O}^* と同型ヲ、従ッテ $\mathcal{O} \cong \Delta_m^*$ 。 K の Δ^* の最大可換部分体カカラ [3] の條件ガ満サレ、従ッテ γ の matrix の元ヲ K/P の正規表現ヲオキカヘテ出来ル $P = \text{於ケル}$ 行列系 γ' の既約デアレ。又カウマッテ、 $P = \text{オケル}$ 既約行列系ガ必ズ $A = \text{オケル}$ 或ハ既約行列系カラ得ラレルコトモ保証サレテ居ル。

従来ノ行掛リヲ離レテ、 $K = \text{関係}$ + γ 云ヒ表ハセバ、 $\gamma^* (\rightarrow \gamma) \rightarrow \gamma'$ と移ルノハ結局、 $\gamma^*: S \rightarrow \mathcal{O}(S) \in \mathcal{O}^*$ カラ $\gamma': S \rightarrow D(\mathcal{O}(S)) = \text{移ルコトデアレ}$ 。 但シ $a \rightarrow D(a)$ の \mathcal{O}^* の $P = \text{於ケル}$ 既約表現デアレ。 精シク云ヘバ $\mathcal{O}(S)$ ヲ先ツ Δ_m^* の matrix トシテ書キ、 Δ^* の元ヲ K/P の正規表現ヲ置換ヘテ出来タモノガ $D(\mathcal{O}(S))$ デアレ。 従ッテ γ' の中間ニトツタ $K = \text{関係}$ + γ^* カラ決ルモノデアレ。 即チ

[4] $P = \text{於ケル}$ 既約行列系 γ' の前談話ノ定理4ニヨリアレ $K/P = \text{オケル}$ 絶対既約+ γ カラ置換ニヨッテ得ラレルノデアレガ、 γ ヲ閉体ニオケル表現トシテ γ^* トハレバ、 γ^* ニ上ノ意味ヲ對應スル γ' ハ唯一ツデアレ。

例ヘバ、 P 上ノ (単単純) Lie 環、 P 上ノ algebra、有限群+ \mathfrak{d} ノ $A = \text{オケル}$ 既約表現の γ^* カラ、上ノ関係ニアル $P = \text{於ケル}$ 既約表現の γ' ガ唯一ツ得ラレル。 (閉体ニ於ケルノ単純環又ハ単純 Lie 環カラ $P = \text{オケル}$ 単純環又ハ単純 Lie 環ガ多数得ラレルノニ相増スル様ナコトハナ

1. 「可換 + Radikal を持つ Lie 環」 (I) p. 158,
 上ノ方デ環ノ分類ヨリ, 表現ノ分類ノ方が難シイダラウト書
 イタノハ考ヘ違ヒデアツタ)

容易 = 全ルマウ = (\mathfrak{g}^* , Zentrum が P, separa-
 rabel + 拡大ノトキ = \mathfrak{h}) \mathfrak{g}^* ハ \mathfrak{g}'_A ノ成分トシテ j 重
 = 含まレル. 而モ \mathfrak{g}^* ノ \mathfrak{g} ノ共軛表現 $\psi^* = \mathfrak{g}^{(1)}, \mathfrak{g}^{(2)},$
 -----, $\mathfrak{g}^{(2)}$ が夫レ j タツツ \mathfrak{g}'_A = 含まレル. $\mathfrak{g}^{(2)},$ -----
 ---, $\mathfrak{g}^{(2)}$ カラモ上ノ手続ニ依ツテ同ジ \mathfrak{g}'_A が生ズル. 即チ
 一般 = A = 於ケル表現ヨリモ P = 於ケル表現ノ方が却ツテ少
 クナル.

尤モ問題が解決シタト云ツテモ飽クマデ原則タケデアツ
 テ, 実際 = P = 於ケル表現ヲ求メヨウトシテモ, envelop-
 ing algebra \mathfrak{g}^* Δ_m^* ノ形 = explicit = ア
 ラハスノが困難トイテ, 個々ノ場合 = \mathfrak{h} 却レラマク行カサ
 イ.

§17. 前談話 p. 2647 二行目 =, Jacobson ノ定
 理 6, 証明が「妙ダ」ト書キマシタガ取消シマス. 中山サン
 ノ注意シテ下サツタ通り, アレハアレデ正シイノデシタ.

— 以上 —